

東京水道グループの一体感を醸成する「ともにプロジェクト」 ～職員・社員一人ひとりの価値を最大限に引き出す「人」に着目した連携の深化～

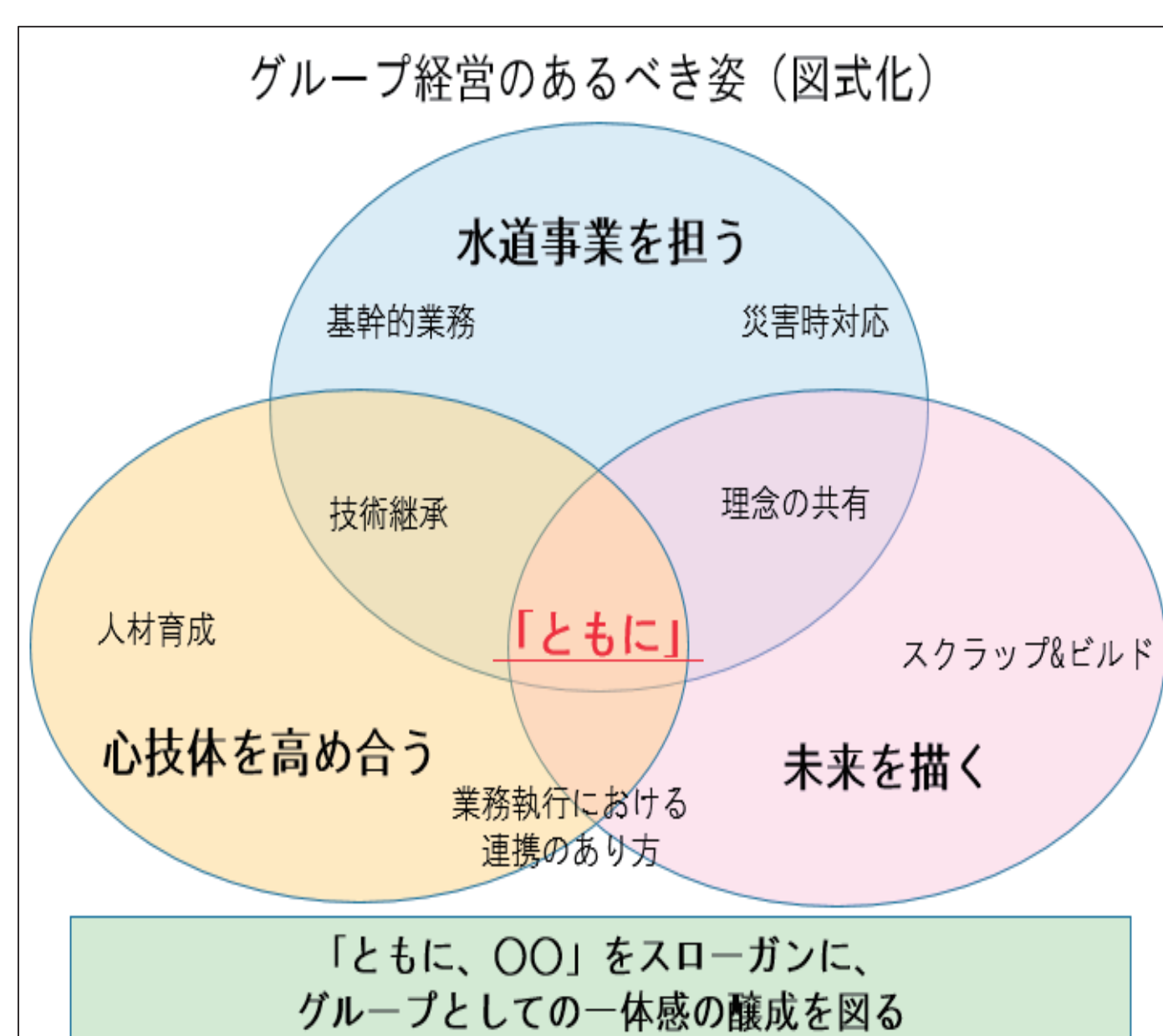
東京水道グループ(東京都水道局及び東京水道株式会社)

1. 抱えていた課題

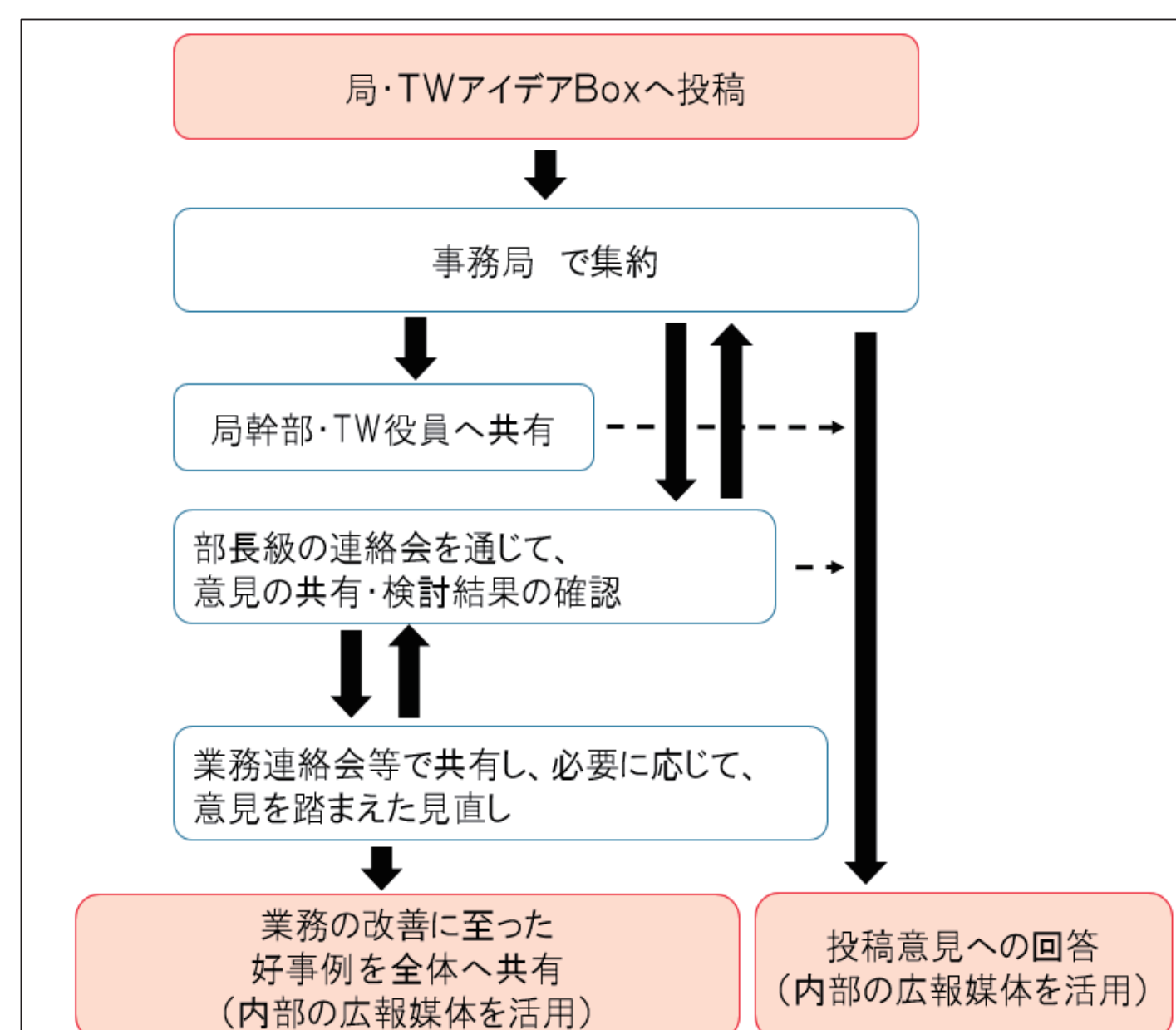
- 東京都の水道事業は、水道事業の基幹的業務を東京都水道局と出資法人(都では「政策連携団体」と呼称)である東京水道株式会社(TW)とが担う一体的事業運営体制を構築し、「東京水道グループ」といういわば一つの「事業体」として統一的な経営戦略の下、相互の強みを発揮し、有機的な連携を図りながら、経営を担っていく「グループ経営」を推進してきました。
- 異なる事業体同士のグループが一体となって取組を進め、同じ目標に向けて事業を推進していくためには、お互いの意見を真摯に受け止めながら、相互理解を深め、東京水道グループの一員であるということ意識して業務を行うための職員や社員への働きかけや動機付けが必要です。

2. 取組概要

- グループ経営の目指すべき方向性として、「ともに」をキーワードとし、東京水道グループにおけるグループ経営のあるべき姿をTWと一緒に描き、プロジェクトを立案(資料1)
- 「ともに、〇〇」をキーワードとした各取組の実施(主な取組を記載)
 - ・「ともに、課題を見つける・検討する」(資料2)
お互いの業務がより良くなるアイデアを局職員及びTW社員から募集する「アイデアBox」を開設し、令和3年9月から実施
 - ・「ともに、理解する」(資料3)
局職員とTW社員による座談会企画や、TWの内定者歓迎イベントにおいて、局職員が東京水道グループについて説明



(資料1)グループ経営のあるべき姿



(資料2)アイデアBox 概要図



(資料3)若手職員の座談会企画/TW内定者歓迎イベント

3. 取組に当たり工夫した点

- グループ内への周知・浸透を図るために、以下の取組を実施
- ・局長とTW社長との対談及びグループ内へ動画メッセージ(資料4)
 - ・局内社内の広報媒体で周知、各事業所にポスターを掲示(資料5)



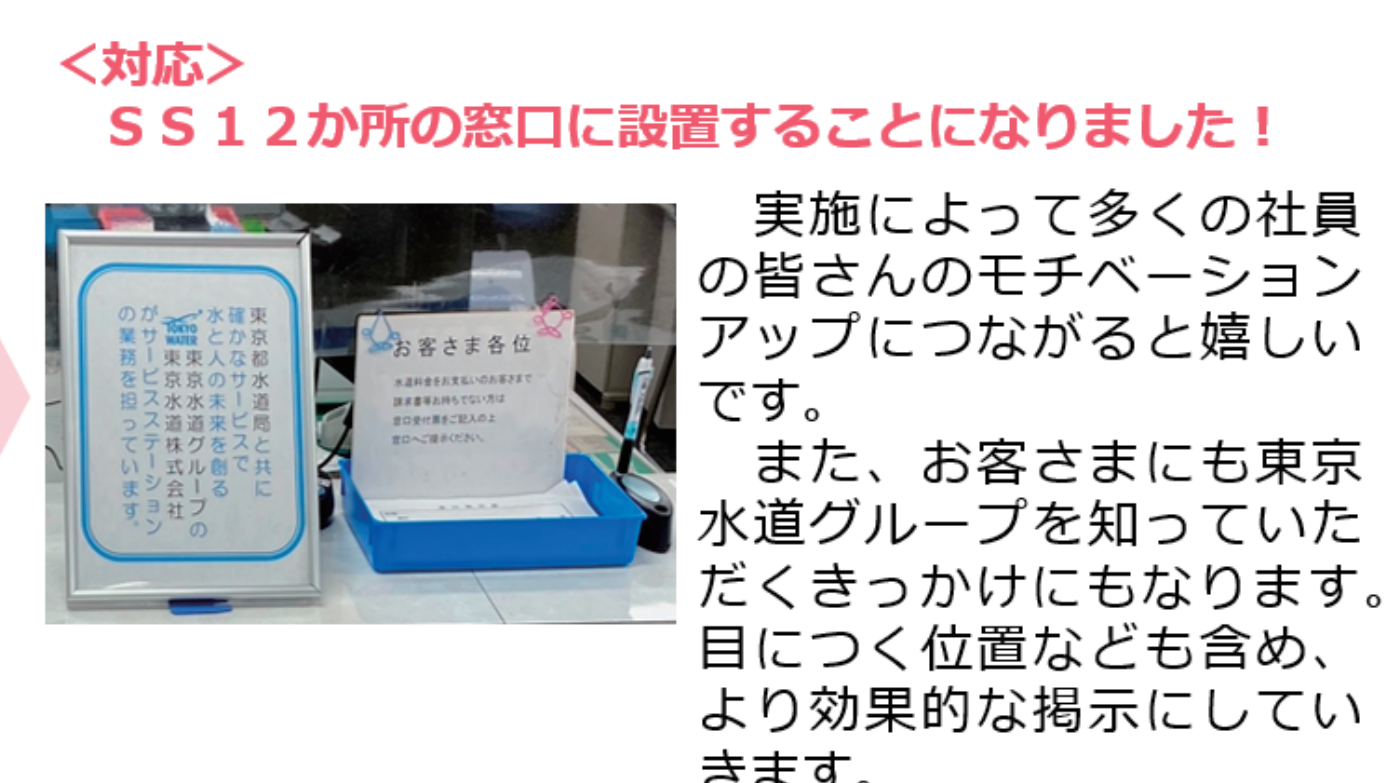
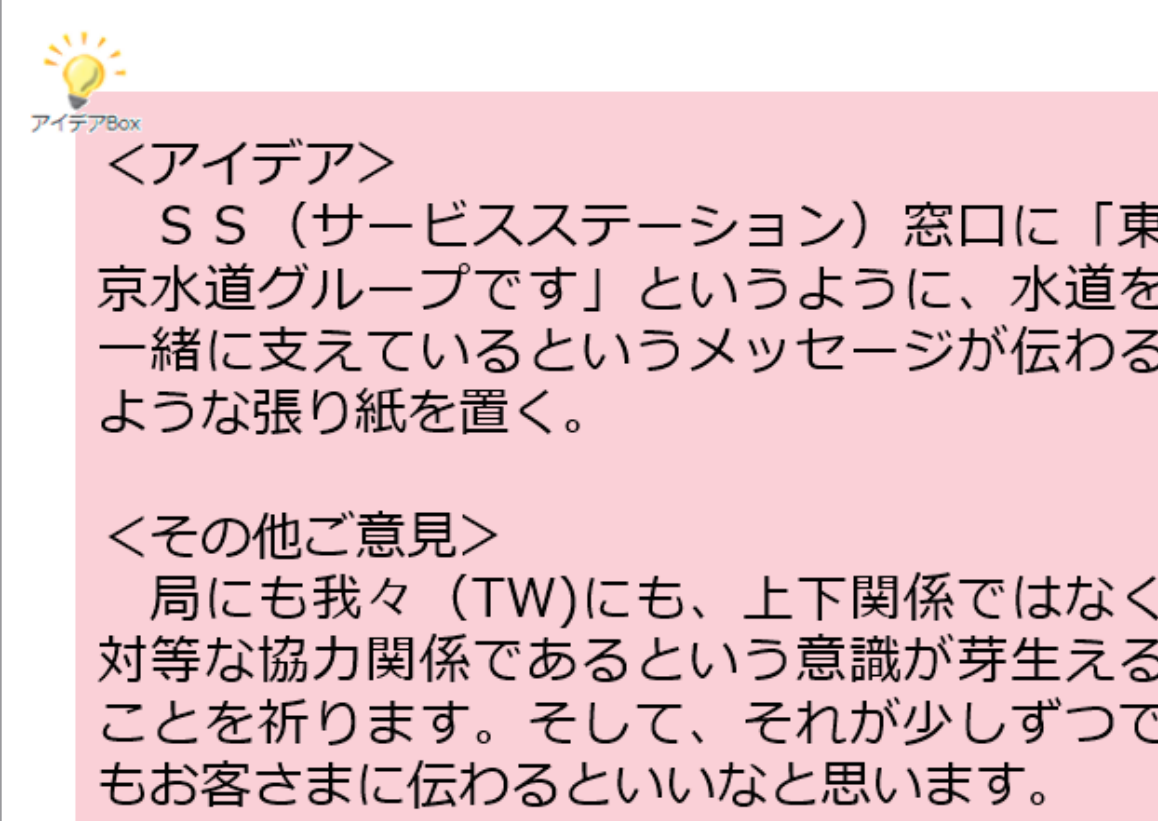
(資料4)局長・社長対談



(資料5)周知ポスター

4. 取組の効果

- 「ともに、課題を見つける・検討する」(アイデアBox)実績
 - ・令和3年度回答意見数 約250件
 - ・業務改善や実施等に至った主な事例(資料6)
- 局とTWの連携が強化されたことで、協力し合える関係性を実感



(資料6)投稿意見により実施に至った事例

5. PRポイント

- 本取組は、「人的資本経営」、「エンゲージメント」や「心理的安全性」の視点を踏まえており、コロナ禍等で対面でのコミュニケーションが減ってきている中、「人」と「人」とのつながりやその意義を見直す効果もあり、現代の要請に適った先進性のある取組です。
- 本取組を通じて、東京水道グループの一体感の醸成やエンゲージメントの向上に寄与することは、水道業務を担う人材の定着及び育成が進み、着実な技術継承の実現が期待できるとともに、お客さまサービスの向上につながります。

6. 今後の展望

- 令和3年度は、本プロジェクトを立ち上げ、「トップの発信」や「一体的に課題解決に取り組む機会の設定」により、グループの意義について、改めて局職員及びTW社員の「理解の浸透」を図りました。
- 令和4年度以降も、「身近で具体的な課題解決」を図ることや、グループの重要性や使命を「現場で実感」してもらう、という方向性を念頭に、各取組を推進していきます。